徒然草（奥山に猫またといふものありて）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

「奥山に猫またといふものあ[a]りて、①人を食らふなる。」と人の言ひけるに、「山ならねども、ア[これら]にも、猫の経上がりて、猫またになりて、人取ることはあなるものを。」と言ふ者ありけるを、何阿弥陀仏とかや、A[連歌しける法師]の、行願寺のほとりにイ[ありける]が聞きて、ひとりありかん身は、心すべきことにこそと思ひけるころしも、ある所にて夜更くるまで連歌して、ただひとり帰りけるに、小川のはたにて、音に聞きし猫また、あやまたず足もとへふと寄り来て、②やがてかきつくままに、首のほどを食はんとす。胆心も失せて、防がんとするに、力もなく、足も立たず、小川へ転び入りて、「[b]助けよや、猫またよやよや。」と叫べば、家々より松どもともして走り寄りて見れば、[c]このわたりに見知れる僧なり。「こはいかに。」とて、川の中より抱き起こしたれば、連歌の賭け物取りて、扇、小箱など ウ[懐に]持ちたりけるも、水に入りぬ。[d]希有にして助かりたるさまにて、B[ばふばふ家に入りにけり]。飼ひける犬の、[e]暗けれど主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。

問一　波線部a、bの各動詞と活用の仕方が同じものを次のア～クの中から全て選び、記号で答えなさい。

ア　失す　　イ　をり　　ウ　起く　　エ　読む
オ　死ぬ　　カ　住む　　キ　はべり　　ク　出づ

問二　波線部c、d、eの品詞名をそれぞれ答えなさい。

問三　傍線部①、②を現代語訳しなさい。

問四　二重傍線部ア「これら」とは何を指すか、答えなさい。

問五　二重傍線部イ、ウの下に適語を補いなさい。

問六　点線部A、Bの各部分では、法師はどのような気持ちであったか。適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　何かに襲われたが、これが猫またに違いない。逃げないと命を取られてしまうと考え、分別を失っている気持ち。
イ　自分の力では、どうにもならないから、誰でもいいから助けに来て欲しいというすがるような気持ち。
ウ　猫またのうわさを聞いて、そのようなものがこの辺りにも出るのなら、恐ろしいという気持ち。
エ　猫またに襲われたとまだ信じていて、近くの人々の助けで、何とか逃げ出すことができたが、まだ恐ろしい気持ち。

学年		組		番号		氏名		得点

問一	問二	問三	問四	問五	問六
a	c	①		イ	A
b	d	②		ウ	B
	e				

徒然草（奥山に猫またといふものありて）　＊

〔出題の意図と留意点〕　文法の基礎的な知識が身についてい
る。また、省略を適切に補いながら内容を把握し、登場人物
の心情も読み取ることができるか確認する。

☆解答例と配点

問一　ａ　**イ・キ**　ｂ　**ア・ク**　〈３点×４〉
問二　ｃ　代名詞　ｄ　形容動詞　ｅ　形容詞　〈３点×３〉
問三　①　人を食うそうだ　②　すぐに飛びついてそのまま　〈４点×２〉
問四　この辺り　〈３点〉
問五　**イ**　法師（僧）　**ウ**　品物　〈３点×２〉
問六　**Ａ　ウ**　**Ｂ　エ**　〈６点×２〉
計50点